

第18回 身近な水環境の全国一斉調査の実施

西日本総合コンサルタント株式会社

全国水環境マップ実行委員会（東京都）では、住んでいる近くの河川を対象に「身近な水環境の全国一斉調査」が行われ、佐賀県ではNPO法人技術フォーラムが調査グループとして参加し、「筑後川水系 黒川（佐賀市金立町）」で2006年（平成18年）以降、15回調査を実施されてきた。

今回、2021年については、コロナ禍であることからNPO法人技術交流フォーラム会員への呼びかけが難しいため、NPO法人技術交流フォーラムの水質調査責任者の大串正氏（勤務先：西日本総合コンサルタント（株）専務取締役）の依頼で当社単独での実施となりました。

令和3年6月9日午前中に、当社（西日本総合コンサルタント（株））の役員・社員8名が2班に分かれ、調査地点7か所の採水、測定・判定を行いました。

水質調査の工程は、次の2つの作業によって行われました。

A. 採水作業

・採水器具（バケツ）、試水を入れる容器（ペットボトル500cc缶、漏斗）を、現場の水で十分に共洗いをする。3回目に、現場の水を、ペットボトル2本（1本予備）に入れる。その時、採水時間、天候、気温を調査表に記入。調査箇所（7か所）の採水が終了後、測定場所（当社、屋根付き駐車場）に集合。



B. 測定・判定作業

・測定場所（屋根付き駐車場）にブルーシートを敷き、調査地点ごとに採水したペットボトルをわけ、測定準備を行った。



・全国水環境マップ実行委員会から支給された「水環境の COD 環境キット」（バックテスト）により測定を行った。

・ペットボトル（試水）の温度（水温）を測定し、反応時間を決定した（25℃：4分30秒）。

・ポリペット専用カップは試水で共洗いをする。

・ポリペットで専用カップの標線まで、試水を入れる

・バックテストのチューブ先端のライン（黄色）を引き抜き、チューブ下半分を強くつまみ、空気を押し出す。

・そのまま、チューブを試水の中に入れ、全量を吸い込み、反応時間のカウントをスタートする。



- ・反応時間になったら、標準色と比べて測定値を決定する。



当日は、30℃を超え、熱中症が心配されましたので、水分補給、休憩を入れながら、無事に終了することができました。

今回の水質調査には、今春入社した 4 名の新入社員が担当してくれ、建設コンサルタントの一分野の水質調査ではありますが、いい経験をしていただきました。